

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 28 年 9 月 21 日
＜第 5 号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●合宿「塾生同士が切磋琢磨し、実践的指導力の向上を図る。」

平成 28 年 8 月 22 日（月）・23 日（火）に、国立オリンピック記念青少年総合センターで 1 泊 2 日の合宿を行いました。

開講式では、東京都教職員研修センター増淵達夫研修部長から、「公開ゼミナールに向けた授業検討を通じて、学習指導力を高めてほしい。」「塾生同士の絆を深め、互いの資質・能力の向上を図ってほしい。」等、合宿に臨む塾生への期待が述べられました。また、塾生代表の言葉として大澤賢志塾生が、「この 1 泊 2 日の学びが今後の私たちを創ることを肝に銘じ、精一杯学んでまいります。」と合宿への意気込みを示しました。

1 日目の午前には、同センター栗原宏成教育開発課長が「教師に求められるもの～教育者としての自覚と責任～」をテーマに講話を行いました。栗原課長からは、教師の責任の重大さや言葉の影響、教師の仕事の素晴らしさに関するお話がありました。講話の中盤には、塾生に「1 年後に、あなたはどんな教師になっているか。」との問いかけがあり、塾生は「子供の可能性を最大限に引き出せる教師になる。」「学び続け、常に全力で子供と向き合う教師になる。」と自信に満ちた表情で答えていました。



－栗原課長の講話－



－伊東教育監の講話－

1 日目の午後には、同センター所長である伊東哲教育監が「次代を担う教師に望むこと」をテーマに講話を行いました。伊東教育監からは、今後の社会に生きる子供たちに必要な資質・能力について、東京都の公立学校における課題、今後の教職人生をどのように生きるかに関するお話がありました。伊東教育監からの「なぜ、教師という職業を選んだのか。」という問いかけに対し、「小学校の頃の担任の先生に憧れたから。」「学校が好きだから。」と笑顔で答える塾生が見られました。講話の最後には、伊東教育監から塾生に激励の言葉をいただきました。

1 日目の午後の後半は、東京教師養成塾の齋藤辰雄教授、青木秀雄教授、牛島隆文教授が「集団を把握する～体育の授業づくりの在り方～」をテーマに実技形式と講義形式による講座を行いました。講座の前半では、塾生全員が体育館に集合し、担当の塾生が考案した体操を行いました。4 月から話し合いを重ねて完成させた体操を塾生全員で行うことで、より仲間意識を高めることができました。全体で集団行動の指導法に関して実技による講座が行われた後、2 つのグループに分かれて、「表現活動」「体づくり」に関する実技講座と「安全指導の意義と留意点」に関する講義が行われました。「表現活動」に関する講座では、塾生は音楽に合わせて体を動かし、表現することの楽しさを味わっていました。



－実技講座の様子－



－班別協議の様子－

2 日目の午前と午後は、10 月 16 日（日）の公開ゼミナールに向けて班別協議を行いました。学習指導要領や準備してきた資料を持ち寄って、より良い授業を目指して検討を重ねました。今年度の公開ゼミナールのテーマである「各教科等の特性に応じた授業づくり～言語活動の充実を通して思考力・判断力・表現力を育む～」を基に、各教科等の指導の中で自分の考えを他人に伝える活動を位置づけたり、紙芝居や役割演技を取り入れたりするなど、塾生から様々なアイディアが出され、活発な意見交流が行われました。

2 日目の午後の後半は、東京教師養成塾を担当する高瀬智子統括指導主事が「学校教育の使命と役割～公務員としての教員の責務～」をテーマに講義を行いました。教育法規に関する内容に触れながら、教育公務員として守るべき服務や常に研究と修養に努めることの大切さについて話がありました。

閉講式では、東京教師養成塾を担当する清野正主任指導主事が「1 日目の夜の自主勉強会で塾生が児童・生徒の実態を考えて、一生懸命に指導案を検討している姿が印象に残った。合宿で学んだことを振り返り、自分なりの言葉でまとめ、今後に生かしてほしい。」等、合宿の講評と今後の塾生の更なる成長を期待する言葉を述べました。最後に塾生代表の言葉として大塚千春塾生が「合宿で学んだことを生かして、教師としての資質を高めていけるように努力していきます。」と今後の講座や特別教育実習への意気込みを語りました。

この二日間、同じ目標をもつ仲間と過ごし、今後も切磋琢磨し合える仲間としての絆が深まりました。

●第8回講座「授業づくりの基礎④～特別活動の指導と学級経営～」

平成28年8月7日（日）に、学級経営の意義や果たす役割について理解するとともに、特別活動における具体的な事例を通して、よりよい学級づくりについて実践的指導力を高めることをねらいとして、第8回講座を行いました。今回、塾生は小学校コースと特別支援学校コースのコース別に分かれて受講しました。

小学校コースでは、東京教師養成塾を担当する菅野恭子指導主事が「学級経営の意義とは」をテーマに講義を行いました。菅野指導主事からは、学級経営の4つの視点に基づき留意したいこと、学級経営案に基づく具体的な指導の例について説明がありました。その後、東京教師養成塾担当の濱勝教授が特別活動の指導に関する講義と演習とを行いました。濱教授からは、特別活動の内容や学級会の事前の指導と準備、話し合い活動の活動過程について話がありました。学級会の活動計画を作成する演習や係活動の指導に関する演習が行われ、塾生は活発に意見交換をしていました。



—グループ演習の様子—

特別支援学校コースでは、東京教師養成塾を担当する茂木里美指導主事が「学級経営の意義とは」をテーマに講義を行いました。茂木指導主事からは、特別支援学校における特別活動について及び学級経営が果たす役割について説明がありました。その後、東京教師養成塾担当の信方壽幸教授が学級経営に役立つICT機器を活用した教材づくりについて講義を行いました。塾生は、信方教授からプレゼンテーションソフトを活用して動画を制作する方法の説明を受け、動く絵本をタブレット端末で作りました。1時間半後、各々が制作した動く絵本にコメントをつけて発表し、個性あふれる作品に拍手や驚きの声がありました。

両コースとも講義終了後、よりよい学級をつくるための特別活動の在り方について班別協議を行い、学級経営や特別活動に対する理解を深めました。



—タブレット端末を活用した教材づくりの様子—

【塾生の感想より】

- ・どのような学級をつくりたいかという方針を示すことの大切さを学んだ。軸がぶれないように強い気持ちをもって学級経営をしていきたい。
- ・学級の雰囲気は教師の考え方や力量によるところが大きいことに気付いた。児童・生徒に切実感や関心をもたせる工夫について考えを深めたい。
- ・いろいろな先生の掲示の方法や工夫を学び、学級経営に生かしたい。
- ・ICT機器の活用により、児童・生徒に興味をもたせる教材が作成できると実感した。積極的にICT機器を活用し、独創的な教材を作成したい。

【連載シリーズ コラム⑦】

◆ 学校が担う役割とは ◆

東京教師養成塾教授 小林 巧

学校教育は、確かな学力、豊かな人間性、健やかな心身の育成を目指しています。この具現化を図ることに、地域・保護者は大いに期待しています。また、学校は、地域のコミュニティの核となる役割もっています。地域の教育力の低下が言われている中、児童・生徒の健全育成や地域防災体制の整備にも、学校のリーダーシップが求められています。つまり、学校は地域の力を活性化させるための核となる役割を担っています。このような背景の中、地域と共に歩み、共に成長する学校づくりが進められています。キーワードは相互の参画です。例えば、保護者組織による学習支援、地域人材による土曜教室、ゲストティーチャーによる授業等、保護者、地域の人材による学校教育への参画が、児童・生徒の学力向上や健全育成のために有効に働いています。一方、学校では地域に出て学習する教育活動を推進しています。総合的な学習の時間の職場体験や生活科、社会科の地域学習等です。まち探検という活動では、子供たちは、学校の周りの地域の商店や公共施設等を訪ねて、聞き取り調査をします。「優しくしてくれた」、「親切に説明してくれた」など、子供たちは地域の人の温かさに触れて、地域理解を深め、この学習体験が地域参画の意識を高めていきます。地域での学習体験は、子供から家庭へ伝わり保護者の地域理解の向上にもつながります。こうした地域と連携した学校教育の取組は、学校と地域の関係をよりよいものにしていきます。

また、地域防災体制の整備によって、地域のコミュニティも確立されていきます。防災教育の推進や防災体制の整備によって、地域や保護者と共に進める命を守る教育や防災意識の高揚が図られます。避難所運営の準備や訓練等を通して、主体が学校から地域に発展していく取組も行われています。地域の危機管理に関わる様々な情報を共有し、児童・生徒や地域住民の安全確保についても、学校が担う役割は大きくなっています。

参加から参画へ、教育から共育へ。学校と地域の協力体制づくりのイニシアチブは学校が担っています。